

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

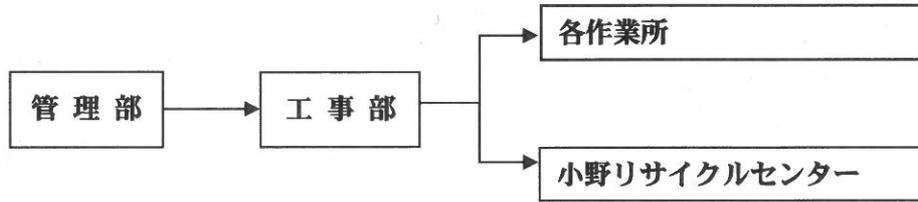
(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 7年 6月30日	
鹿児島市長	殿
	提出者
	住所 鹿児島市玉里町20番40号
	氏名 株式会社 吉丸組
	代表取締役 吉丸貴明
	電話番号 099 - 226 - 7150
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 吉丸組
事業場の所在地	鹿児島市玉里町20番40号
計画期間	令和 7年 4月 1日 ~ 令和 8年 3月 31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	建設業(総合工事) サービス業(産業廃棄物運搬・処理業)
②事業の規模	前年度元請完成工事高 12億7千万
③従業員数	50人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	現場から発生した産業廃棄物を運搬し、産業廃棄物処理場で処理する。

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	別紙の通り	t
	(これまでに実施した取組) 建設リサイクル法に基づくとともに、すべての廃棄物について各事業場でキメの細かい分別を行っている。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	別紙の通り	t
	(今後実施する予定の取組) 現状の取り組みと同じ		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特定建設資材（コンクリート（無筋・有筋）、アスファルト、木くず）は、徹底した分別を行い再資源化施設で処理している。それ以外の廃棄物もできる限り分別を行い中間処理施設で処理し最終処分場での処理をできるだけ少なくしています。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の取り組みと同じ

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙の通り	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙の通り	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙の通り	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	別紙の通り	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙の通り	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	別紙の通り	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙の通り	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙の通り	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	別紙の通り	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙の通り	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙の通り	t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙の通り	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙の通り	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	別紙の通り	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	別紙の通り	t
	再生利用業者への 処理委託量	別紙の通り	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	別紙の通り	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	別紙の通り	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)処理計画書 廃棄物の種類が複数ある場合この表を使用してください

別添内訳書

(お願い:2種類までは計画書に記載することができますが、集計の都合上、なるべくこの表をご使用ください)

数字(↑)

廃棄物の排出の抑制に関する事項		がれき類	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラス・コン	紙くず	汚泥	建設混合廃棄物(※)	廃油	繊維くず	合計
①現状(前年度実績)	排出量【A】	5,908	506	274	13	1,075	27		17		1	7,821
②計画(今年度目標)	排出量【B】											0
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項												
①現状(前年度実績)	自ら再生利用を行った量【C】	1,361										1,361
②計画(今年度目標)	自ら再生利用を行う量【D】											0
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項												
①現状(前年度実績)	自ら熱回収を行った量【E】											0
	自ら中間処理により減量する量【F】											0
②計画(今年度目標)	自ら熱回収を行った量【G】											0
	自ら中間処理により減量する量【H】											0
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投棄処分に関する事項												
①現状(前年度実績)	自ら埋立処分を行った量【I】											0
②計画(今年度目標)	自ら埋立処分を行う量【J】											0
産業廃棄物の処理の委託に関する事項												
①現状(前年度実績)	全処理委託量【K】	4,547	506	274	13	1,075	27		17		1	6,460
	優良認定処理業者へ処理を委託した量【L】											0
	再生処理業者へ処理を委託した量【M】											3,681
	内訳 認定熱回収業者へ処理を委託した量【N】											0
	内訳 認定以外の熱回収業者へ処理を委託した量【O】											866
②計画(今年度目標)	全処理委託量【P】											0
	優良認定処理業者へ処理を委託する量【Q】											0
	内訳 再生利用業者へ委託する量【R】											0
	内訳 認定熱回収業者へ処理を委託する量【S】											0
	内訳 認定以外の熱回収業者へ処理を委託した量【T】											0

※ガラス・コン=ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏ボードもガラス・コンの項目です)

※建設系の廃棄物で、品目ごとの仕分けが不可能な場合は、建設混合廃棄物として記入してください。

